

# 担任が進める英語の授業を目指して!

NO 1

外国語活動の重点グループでは、7月まではALTとのTT指導のあり方を研究・研修することを決めて、現在までに6名が係内授業を行いました。

英語の授業を他の先生方がALTとどのように進めているかは、私もほとんど実態は分かりませんでした。

今回、初めて色々な先生方の授業を参観することで、たいへん参考になることが見えてきました。

不定期ではありますが、このような形で少しずつ全校の先生方の英語の授業にも生かしていただけるように通信を発行いたします。(ごくごく簡単な事から始めましょう。)

## ①授業のスタートは、担任が進める。

英語の授業が始まると、ALTがHelloと教室に入って来ます。そのまま授業が始まったり、児童の挨拶で授業が始まったりするかと思います。

係内では、担任が主になって進める第1歩として「スタートの挨拶は担任が仕切ろう!」と決めて実践を始めました。

HRT : Hello,〇〇先生。(ALTの名前)

ALT : Hello.

HRT : Let's start English class.  
How are you?

たったこれだけでOKです。

後は、ALTが担任の先生の出方に合わせて進めてくれます。

## ②授業中の基本の立ち位置は前。ALTの横に立つ。

授業中ALTが進めている時、先生方はどこにいますか?

子どもの間に入って個別対応することもあるかと思います。

それも担任の役割です。

しかし、基本の位置はやはり前にしてみてください。

係内研究で、A先生がALTの横に立ち、ジェスチャーをまねしたり、ALTの言葉を繰り返したりして、なんとか自分も進めようとする姿は、たいへん参考になりました。

# 担任が進める英語の授業を目指して!

NO 2

「担任が進める!」と言っても、それはなかなか難しいことです。

ALTに主で進めてもらっている現状に、できそうなことを少しずつ付け加えていってみませんか。

## ③ALTの言ったことを繰り返す。

ALTの横に立ったら、次にできることは、ALTが話した英語の一部分でいいので、まねして子どもたちに話しかけることです。

全てをまねてリピートすることは、大変だと思います。

まずは、聞き取れた範囲。最後の単語だけでも充分です。

担任の先生がこのように繰り返すと、ALTも間をとってくれるはずですよ。

例えば、ヒントクイズの場面。

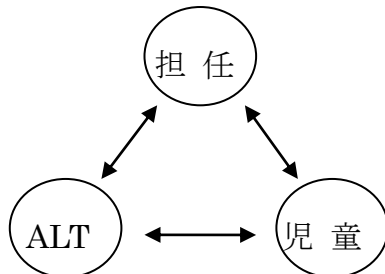
ALT : It's red.

HRT : Red!

ALT : It's fruit.

HRT : Fruit.

ちょっとしたことですが、こうすることによって、下の図のように教室のやりとりが三角形の関係になっていきます。



## ④児童をほめたり、励ましたりする。

ALTに授業を進めてもらっているとき、担任の先生方は児童一人ひとりのフォローに回ることが多いと思います。

そんな時、子どもたちを誉めたり、励ましたりしてあげてください。

最初は、Good!だけでもいいですね。

正解です。．．．．． That's right.  
よくできました。．．．．． Good! /Great! /Good job!  
よく頑張ったね。．．．．． Nice try! /Good try!  
惜しい。．．．．． Close! /Almost!

# 担任が進める英語の授業を目指して!

NO 3

「担任が進める!」と言っても、それはなかなか難しいことです。

ALT に主で進めてもらっている現状に、できそうなことを少しずつ付け加えていってみませんか。

## ⑤ALT に聞き返す。

ヒントクイズやゲームの説明は、ALT に英語を使ってもらっています。

英語のヒントや説明を一字一句全て理解する必要はありません。

大切な事は、ある程度まとまった英語を聞いて大筋を理解できるかどうかです。

しかし、子どもたちが????となってしまう場面もあります。

そんな時は、子どもたちの実態を知っている担任の出番です。

子どもたちが????となっていたら、『担任の先生も分からないな〜』というふりをして、ALT が説明中でも次の言葉を使って割り込んでみてください。

- ○○先生,pardon.
- ○○先生,could you say that again?
- ○○先生,slowly.
- ○○先生,once more please.

※○○には、ALT の名前が入る。

ALT の説明をもう一度聞いても、分かっていなそうだったら、担任の先生が日本語で説明してあげてください。

繰り返し説明してもらっても児童が分からなそうであれば、活動自体が子どもたちに複雑すぎたということです。(すみません)

上記の表現を何回か使っていれば、子どもたち自身が分からない場面に出くわしたときに、自然と同じ表現を使うようになるかもしれません。

# 担任が進める英語の授業を目指して!

NO 4

「担任が進める!」と言っても、それはなかなか難しいことです。

ALT に主で進めてもらっている現状に、できそうなことを少しずつ付け加えていってみませんか。

## ⑥教師対児童全体の活動は、ALT と交代で行う

活動の中に、教師と児童全体で行うものがあります。

例えば、ヒントクイズ、ブラックボックスゲーム、カルタゲーム等

このような活動の時、1 回目は ALT が活動全体を仕切って進めています。

担任の先生は、ALT にふられて指導をされているかと思えます。

担任の先生方は、それぞれの活動の詳しいやり方を把握していませんので、当然このような形になっています。

全てを ALT に任せてしまうのではなく、ALT と交代で活動を進めていくのはどうでしょうか。(1 学期は、大分そのようにしていただきました)

担任の先生方の心づもりとして、ALT の後にはご自分が同じことをすると思って、ALT の 1 回目の活動の様子を良く見てください。

例)

### ①ブラックボックスクイズの場面

1 回目は、ALT が児童数名を指名して前に出させます。

そして、ALT がブラックボックスに何か物を入れ、What's this?と前に出た子に当てさせます。前に出た数名の児童が終わったところで、担任と ALT の役割交代になります。2 回目は、担任が同様に進めます。

### ②ヒントクイズ

1 回目は、ALT がキャラクターなどに関するヒントを出します。(例えば、○○○○○だったら、I like じゃがいも.等

2 回目は、担任が別のキャラクターでヒントを出します。ここは、全て英語でなくてもかまわないと思います。できる範囲でお願いします。

# 担任が進める英語の授業を目指して!

NO 5

「担任が進める!」と言っても、それはなかなか難しいことです。

ALT に主で進めてもらっている現状に、できそうなことを少しずつ付け加えていってみませんか。今回は、特にやる気満々の低学年に有効な支援です。

低学年の授業は、座席に座るよりも机を後ろに下げておき、床に座って行う方が良いかもしれません。その辺り、重点でも検討したいです。

## ⑦ALT チームと担任チームに分かれて活動を行う。

歌遊びや指示ゲームなど体を動かすことが大好きな子ども達にとって、教師対児童全体で進む活動では、自分の出番がなかなか回ってこないために満足できない場面がないでしょうか。

そんなときには学級を ALT チームと担任チームの2つに分けて活動を行ってみてください。

係が「この活動は、2つに分けてください。」とお願いすることもあります。しかし、授業の様子を見て担任の判断で必要であれば、2つに分けて活動を行ってください。

例)

### ①ロンドン橋落ちた (2年生)

2年生で、「ロンドン橋落ちた」の歌活動を行いました。学級全体で1つの輪になって活動をしたのですが、輪になっていてもなかなか橋まで回って来ないために子ども達は、ちょっと欲求不満そうでした。そんなとき、担任の先生と ALT のチームに分かれて2つで同じ活動を行えば、より多くの子ども達が楽しめます。

### ②What's this ?クイズ

○△□等の穴が開いた封筒の中にキャラクター等のイラストを入れておき、1つずつ形をめぐり、中のキャラクターを当てる活動です。

これも子ども達に人気のある活動ですが、全体を進めると数名の子ども達しか答えることができません。

多くの子ども達が満足できるようにするために、担任の先生と ALT のチームに分かれて2つで同じ活動を行えば、より多くの子ども達が楽しめます。

このような場合には、机を後ろに下げて子ども達が移動しやすいような隊形で授業をするのがいいですね。

# 担任が進める英語の授業を目指して!

NO 6

「担任が進める!」と言っても、それはなかなか難しいことです。

ALT に主で進めてもらっている現状に、できそうなことを少しずつ付け加えていってみませんか。

## ⑧活動の例示は、3 回行う。2 回目からは、担任主導で。

### ALT→担任。担任→ALT。担任→児童数名

外国語活動・英語活動には、沢山の活動があります。恐らく、先生方も指導プランをパット見ただけでは、どのような活動を行うのかが分からないまま授業が進む事があるかもしれません。

子どもたちにとっても、やり方が分からないまま活動に入ってしまうと、『友達とコミュニケーションをする』どころではなく、日本語で「えっ何やるの?」とお互いに教えあっているっていませんか。

大抵は、ALT が担任相手に例示をします。それを見て分かるのは、一部の児童です。

ここからが、担任主導の場面です。

先生方は、やり方が分かったはずですが、2 回目の例示は、担任から ALT に対して同じことをしてください。これで、大方の児童は、やり方が分かるはずですが。

更に大切なのは、3 回目の例示をすることです。

担任の先生から、理解できてそうな数名の児童を相手に例示を繰り返してください。

子どもたちは、「次は、自分が当てられるかも知れない」という意識も働き、やり方をよく見ます。これで、ほとんどの児童が活動を理解するはずですが。

例) お買い物ごっこの場面で、黒板には食べ物のイラストが沢山貼ってある。

[ 1 回目 ]

ALT が店員 (店員の帽子をかぶる) : What do you want?

担任がお客 (お盆を持っている) : ○○Please.

ALT : Here you are. 担任 : Thank you.

[ 2 回目 ]

HRT : Next, I'm a Shopper.店員の帽子をかぶる。What do you want?

ALT : ○○Please.

HRT : Here you are. ALT : Thank you.

[ 3 回目 ]

HRT : Next you are a customer.お盆を児童に渡す。

HRT : What do you want? 児童 : ○○Please.

HRT : Here you are. 児童 : Thank you.

## ② 1時間の授業の流れ

授業の流れ	時間
(1)あいさつ	5分
<p>(2)活動①</p> <p>本時のねらい（活動をする必要感）とやり取りのポイントを示すことを含む。</p> <p>【本時のねらいについて】</p> <p>活動①の最初に、児童が活動をする必要感を持てるような話題提示を行う。本時の活動にあわせ、児童に必要感を持たせる工夫をする。</p> <p>※必要感の具体的な分類</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①友だちとお互いのことを情報交換しよう。</p> <p>②設定された場面の状況の中で活動しよう。</p> <p>③ゲーム活動で楽しもう。</p> </div> <p>【やり取りのポイントについて】</p> <p>やり取りを次の2種類に分類する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 教師と児童とのやり取り</p> <p>② 児童同士のやり取り</p> </div> <p>本時の活動では、どのようなことを意識すればいいのかを児童に示す。</p> <p>【活動種類の分類】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①聞く活動</p> <p>②口まねする活動</p> <p>③記憶したり自分のものにしたりする活動</p> <p>④自分の意志で選んで発話する活動</p> <p>※文部科学省発行「小学校外国語活動研修ガイドブック」より</p> </div> <p>上記の分類のどの活動にあたるのかを単元展開としてあらかじめ計画し、各時間に割り振る。</p>	15分
(3)活動②	15分
(4)次単元の土台作り	5分
(5)振り返り	5分